

SA の時間

国際バカロレア (I B) の教育プログラムでは、S A と各教科の学習が密接につながっています。生徒たちは、発見した様々な問題を解決するために、教科での学びを活かして、それぞれで行動し、I B の目指す学習者像に近づいています。注目する問題や行動は様々です。例えば・・・

物価高が気になるから、スーパーに調査に行こう！



アポも自分たちでとります



学校近くのスーパーで調査中

SA って？

SA(Service as Action) とは、国際バカロレア (I B) で定められている活動の一つで、SERVICE(奉仕) と ACTION(行動) を意味しています。つまり、奉仕の心で、地域や世界と自分とのつながりを考え、社会に対して何らかの活動をしていきます。

店員さんに商品の価格高騰について尋ねたり、お客さんに、買い物の悩みを尋ねたりしました。オリーブオイルが高くなったらしい。なぜだろう。

晴れの日が続くから水やりしよう



特に係は決まってないけど、技術の授業で使っているサツマイモの畑が枯れると困る！こまめに気にして、自主的に水やりをしているようです。困りごとに気づき、すぐ対応できる行動力、継続する力が育っています。

SA の活動は、大きなプロジェクトでなくとも良いのです。生徒たちは家庭の困りごとや学校の困りごとを見つけ、継続的に行動していきます。

SA での成長 (一部)

自ら行動
継続が大切

食品ロスについて調査しに行こう！



給食センターを尋ねました

同じようなテーマで行動しても、それぞれ内容は違うようです。

食品ロス問題も、様々な場所で調査すると、違った方向から考えることができます。



食堂にポスターを掲示しました

海洋汚染とゴミ問題で、河川の調査！



海洋汚染が気になる生徒と、ゴミ問題が気になる生徒が一緒になって近所の河川を調査しに行きました。意外ときれい・・・と思いきや、



そこかしこに隠れゴミが！！ゴミ捨て禁止の看板もたくさんありました。

さらに、複数の河川を調査するとごみの種類や看板にも違いが。実際に行動してみると、その過程で新しい疑問がでてくるようです。

SAでの成長（一部）

・まずはやってみよう ・ギモンは行動の中から ・視点は一つじゃない

職員室のコマド

— れいめい教職員コラム —

あなたを応援したい教員が、交替で書くコラム。
内容は、勉強のことから趣味のことまで様々です。

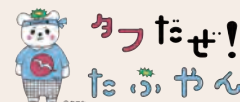
それまでの私にとって、平日の昼間は皆、学校や会社に行っていて、家の周りは静かでのどかな時間が流れている。それが当たり前だった。しかし、自分がある場所以外でも誰かが仕事をしていて、生きている。世界は、自分の知らないことの方が多い。平日の昼間の住宅街も誰かが働いていて、そうして世界はまわっている。

風邪で学校を休んだ時、部屋の寝床にいる平日の昼間は、特別感と孤独感が入り混じる時間だった。その日は、家庭の都合で休む必要があって、家を出るまで私は時間を持て余していた。テレビを視聴することに飽きた後、気まぐれに外に出てみた。ちょうど検針をして、ガスの会社の人が来ていた。軽く挨拶をして、散歩を始める。家の前の田んぼには、田植えをするおじいさん。ご近所さんには、宅配業者が訪ねてきていた。保育園のお散歩も行われていた。平日の昼間は、静まり返っていないかった。

「平日の昼間」
会社員が働いているとき、学生が学校で学んでいるとき、自宅には母だけだったり誰もいなかったりで、住宅街は静まり返っている。と、子どもの頃は思っていた。そうではないことが分かったのは、小学二・三年生ぐらいの頃だっただろうか。



2年生担任
東園 敬介
(出水小出身)
教科：国語



れいめい生徒会所属のくま(?)
不屈不撓の心をもつ「たふやん」
の日常を描く四コマ劇場
友達のマシオ(柔道部)もいるよ



へそ出しルック

